#### 令和5年度 学校評価報告書



越前町立宮崎小学校

#### 目 次

				^	ページ
◆スクールプラン		•			1
◆評価の方法					2
◆年間自己評価書 総括表	-	•	•	•	3
◆具体的項目別評価表					
主体的な学びづくり		•			4~5
創造的な活動づくり		•	•		6~7
共に歩む教職員集団	•	•			8
◆基礎資料(アンケートデータ)			•		9
◆学校関係者評価書					10





すべての子どもたちの可能性を引き出す 個別最適な学びと協働的な学びの実現 越前町の学校教育目標

越前町の学校教育方針

~個性と協働が共存する学校教育

# 学校教育目標

### 10 ボバル か 手ジ 徊



- 「児童がつくる」創造的な活動
- 「児童とつくる」主体的な学び 2
- 「共に歩む」教職員集団 က

魅力ある学校づくり

⋖ ပ ۵



#### C ۵ ۵

# M カリキュラムマネジメントにより教育課程を改善す 授業改善による確かな学力の育成をめざす 主体的な学びづくり

- | 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業 研究。 2学びを振り返り、学びを確かめ共有する。 ● 「授業がよくわかる?」 に「当てはまる」と答え る児童を60%以上にす
- ②「授業に主体的に取り組 んでいる?」に「当ては まる」と答える児童を 4地域に学び、地域にかかわるふるさと学習。 60%以上にする。

# 〈合い言葉〉

みんなとしくる すすんて学ぶ

〈育成をめざす資質・能力〉 思考力、判断力、表現力等 学びに向かう力、人間性等 知識及び技能

4 自らつくる健康な心と体、健康な 生活。

②「みんなで何かをするの 3 は楽しい?」に「当ては まる」と答える児童を 4 80%以上にする。

**(N**)

3みんなでつくる安全・安心な学校

|主体的に考え、すすんで活動する。

児童が主体となる学校生活 創造的な活動づくり

健やかな心と体づくり

2 試行錯誤する場と機会の保障。

①「学校が楽しい?」に「当 てはまる」と答える児童 を70%以上にする。

# 共に歩む教職員集団 心身ともに健康で、生き生きと働

- 1主体的な校内研修や日常的な交流で学び合う。2課題をふまえ、目標・目的を明確にし、改善のために協働する。 ①「主体的に学び協働できた?」「目標・目的を問い直し、よりよい授業・活動づくりをめざした?」に「当てはまる」と答える教職員を80%以上にする。
- I 心身の健康やワークライフバランスを意識して働き方を調整する。 2 長期休業中に7日以上年休を取得する。 ②時間外勤務時間を月平均45時間以下にする。 ③年休平均取得日数を年間11日以上にする。

# 〇願いや思い・課題を共有し、評価・改善する。

〇地域の資源を生かした学びを共につくる。

創造性や主体性を伸ばし

・安心して学校生活を楽し

たい。

〇宮崎中との交流や学びの共有。

家庭・地域との連携・協働

# PDC

## ・変化する社会に適応でき るたくましさを育ててほ んでほしい。

ۮٛ

#### 評価の方法

#### 評価の方法について

- ① 本年度目標の達成状況については、児童対象にアンケートをとる。
- ② 具体的方策の取り組み状況については、教職員対象にアンケートをとる。
- ③ 上記①②の結果と児童の様子を総合的に判断し総合評価とする。 ※アンケートは、1(肯定的), 2(おおむね肯定的), 3(やや否定的), 4(否定的)の4段階で答える。

#### 評価基準について

#### • 総合評価

	А	В	С
目標の達成状況	目標を達成	目標は達成できていない	目標を達成できず、
	できている	が、達成に近い	改善の余地が大きい

#### ・児童アンケート

	А	В	С
目標の達成状況	数値目標を達成	数値目標は達成できていな	数値目標を達成できず、
	できている	いが、達成に近い	改善の余地が大きい

#### 教職員アンケート

	А	В	С
目標の達成状況	目標を十分達成できてい る	目標をおおむね達成できている	達成できていない
(めやすとする肯定的回答 (1と2の合計)の割合)	(90%以上)	(70%以上90%未満)	(70%未満)

#### 評価の時期と改善について

・本年度の取り組みの評価として、2学期末に児童・職員に対してアンケート調査を実施し、その結果や児童の様子をふまえ、3学期及び次年度に向けての改善策を立てる。

#### 令和5年度 年間自己評価 総括表

具体 的 項目	本年度目標	具体的方策	総合評価	
カリキュラムマネジメン授業改善によるな	①「授業がよくわかる?」 に「当てはまる」と答える 児童を60%以上にする。	1. 主体的·対話的で深い学びの実現に向けた授業研究 ・道徳の授業を中心に各教科の「見方·考え方」を働かせ ているかを意識する。 2. 学びを振り返り、学びを確かめ共有する ・つけたい力に向かって、児童自身が学びをつなぐこと ができる「課題設定」と「自己評価」を行う。 ・子ども発の課題設定をした単元構成を一つ以上実践す	D	
トによる教育課程の改善唯かな学力の育成	②「授業に主体的に取り組んでいる?」に「当てはまる」と答える児童を60%以上にする。	る。 3.教科領域をつなぎ、学びをつなぐ学習計画 ・道徳を中心とした年間の全体計画(別葉)を各学年で作成していく。 4.地域に学び、地域にかかわるふるさと学習 ・地域と関わりの深い総合的な学習の時間の内容を各教科と関連付けて効果的に行う。	ם	
健やかな心児童が主体と	児 健童 やが か主 な体 心と	1. 主体的に考え、すすんで活動する 2. 試行錯誤する場と機会の保障 ・学校行事や縦割り班活動、委員会、係活動等を通して、児童のアイデアを十分に引き出し、実現しようと努力する活動の工夫をおこなう。 3. みんなでつくる安全・安心な学校 ・毎月の生活目標において、「重点的な取り組み」について学級で話し合い、振り返ることで、よりよい学級・	В	
体づくり り生	は楽しい?」に「当てはま	学校づくりへの意識を高める。 ・ポジティブ教育を充実させ、互いに認め合える人間関係づくりに努める。 4.自らつくる健康な体、健康な生活 ・自分の目標に向かって運動を続け、粘り強く挑戦できる活動の工夫をおこなう。 ・家庭と連携し、児童自らが自分の生活を見直し、健康への意識を高められるような働きかけをおこなう。	ם	
生き生きし	生き生きと	①「主体的に学び協働できた?」「目標・目的を問い直し、よりよい授業・活動づくりをめざした?」に「当てはまる」と答える教職員を80%以上にする。	1. 主体的な校内研修や日常的な交流で学び合う。 2. 課題をふまえ、目標・目的を明確にし、改善のために 協働する。	1
J働く教職員に健康で、	②時間外勤務時間を月平均45時間以下にする。 3年休平均取得日数を年間11日以上にする	3. 心身の健康やワークライフバランスを意識して働き方を調整する。 4. 長期休業中に7日以上年休を取得する。	В	
	的項(カリキュラムマネジメントによる教育課程の改善健やかな心と体づくり 生き生きと働く教職の目 授業改善による確かな学力の育成 児童が主体となる学校生活 心身ともに健康で、	的項       カリキュラムマネジメントによる教育課程の改善       健やかな心と体づくり       生き生きと働く教職員         本       10に児       2のる以       10に児       2のる以       10に児       2のる以       10に児       2のの育成       10に児       2のの育成       10に児       2のの育成       10に児       2のの育成       10に児       2のの言の       10に見       10に表       10に表       10に表       10に表       10に表       10に表       10に表       10に表       10に表       10に見       10に表       <	###	

#### 具体的項目と目標、具体的方策と評価

中期重点項目 授業を高による確かな学力の育成 カリキュラムマネジメントによる教育課程の改善		主体的な学びづくり		
カリキュラムマネジメントによる教育課程の改善  本年度目標 ②「授業がよくわかる?」に「当てはまる」と答える見定を60%以上にする。 ②「授業に主体的に取り組んでいる?」に「当ているよ子が見受けられる。こかした、変化の激しいこれからの社会では、子どもたち自身が自分の力で生き、技くための力、いつからる「生きる力」を身につけることが深められている。こので異ない書き、一般では、大きもたち自身が自分の力で生き、大きな、ための力、いつからる「生きる力」を身につけることが求められている。このの授業改善を答案では、おりもには、主体的・対話的で深い学びの実現のために信払い学力」を育成してでするのの授業改善を言に求めていきたい。また、主体的・対話的で深い学びの実現のために信払い学力」を育成してでするのの授業改善を言に求めていきたい。また、主体的・対話的で深い学びの実現のためには、教科領域等をつなざ、児童アンケート) ②「授業に主体的に取り組んでいる?」に「当てはまる」と答える児童の割合 → 【6 196】  1・主体的・対話ので深い学びの実現のためには、教科領域等をつなざ、児童アンケート) ②「授業に主体的に取り組んでいる?」に「当てはまる」と答える児童の割合 → 【6 196】  1・主体的・対話ので深い学びの実現に向けた授業研究・道徳の授業を中心に各教科の「見方・考え方」を働かせているかを意識することができたか → 【肯定的回答 100%]  2・学びを振り返り、学びを確かめ共有する ・ ②・学びを強り返り、学びを確かめ共有する ・ ②・学びを強り返り、学びをでつなぐ学部計画・道徳を中心とした年間の全体計画(別案)を各学年で作成していくことができたか → 【肯定的回答 5 6 96]  3・教科領域をつなど、学びをつなぐ学部計画・道徳を中心とした年間の全体計画(別案)を全学年で作成していくことができた。教科領域をつなど、学びをつなく学部計画・道徳を中心とした年間の全体計画(別案)を全学年で作成していくことができた。教科の策を造したできたが、表え方」を働かせているかなどのどのように学んでいるかを明確にしまないできたか。 「「津体的」に対しいては検討をでつないてことで、学びをできたができた。教科の「見方・考え方」を開始にしまなりの意味が発達していないから、学年別に結果をみると目標値を達成できていない学年もあった、学年によって「主体的」では対し組み、はなり組み、「具体の対し、対しに対しないかと考えられる。・ 学年別に結果をみると目標値を達成できていない学年もあった。学年によって「主体的」では対り組み、「見様の行っないが「よくわかる」とを表えのようで表ものものできるように、どん仮とのよりに構想するかについてのいる、・「②・今後も主体的・対話ので深い学びにけてなく、単元をとのように構想するかについてのいるとで学が完けてなく、単元をとのように構想するがについてのいる、現まをはいいるが表ものとで学部に対してきるように、どん仮とのははないかと考えられる。 ・ ②・会とは対していまればないかと考えられる。 ・ ②・会とは対していまればないかと考えられる。 ・ ②・会とは対しないかと考えられる。 ・ ②・会とは対しないができないができないができないができないができないができないができないができ	中期重点項目			В
本年度目標 以上にする。				
本校児童の多くは素直で、与えられた課題に対して丁寧に一生懸命取り組むことができる一方、常に課題の提示や指示を待っている様子が見受けられる。しかし、変化の激しいわいらの社会では、子どもたち自身が自分の力で生きしため、からの力、いわゆる「生きる力」を身につけることが変わられている。この「生きる力」の一つである「確かな学力」を場成にいず力」を育成った。だまき数」か「思考力・判断力・表現力」を含めた幅広い学力」を育成のだ実を強を常に求めていきたい。また、主体的・対話的で深い学びを実現することが必須である。そのためのだ案を強を常により、教育課程の改善につけていまたい。  1 「授業がよくわかる?」に「当てはまる」と答える児童の機業できるとが最も効果的である。そのための授業を強を常にない。教育課程の改善につけていまたい。  1 「授業がよくわかる?」に「当てはまる」と答える児童の割合 → [7 1 96]  2 「授業に主体的に取り組んでいる?]に「当てはまる」と答える児童の割合 → [6 1 96]  1 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業研究・道徳の授業を中心に取り組んでいる?]に「当てはまる」と答える児童の割合 → [6 1 96]  1 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業研究・道徳の授業を中心に取り組んでいる?」に「当てはまる」と答える児童の割合 → [6 1 96]  1 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業研究・道徳の授業を中心といる教科の「見方・考え方」を働かせているかを意識することができたか → [肯定的回答 1 0 0 96]  2 学びを握り返り、学びを確かり表する → [情定的回答 5 6 96]  3 教科領域をつなぎ、学びをつなぐ学習計画 ・道徳を中心とした年間の全体計画 [別実)を各学年で作成していくとがさきたか → [情定的回答 8 2 96]  ○子ども発の課題設定と「中に単元構成を一つ以上実践することができたか → [情定的回答 5 6 96]  3 教科領域をつなぎ、学びをつなぐ学習計画 ・道徳を卒料と関連付けて効実限的に行うことができたか → [情定的回答 8 0 96]  ・学校全体としては①②ともに目標値を達成することができた。教科の「見方・考え方」を働かもいがまた。とができたのを単確にし手がまた。とができまたができまた。と様対するかはでいまなどのどのように学が必要のイメージが異なり、前向きに自己評価するのが難しかいと考えられる。・学年別に結果をみると目標値を達成できていない学年もあった。学年によってでいないのでを進めた、今後も主体的・対話的で深い学びに向かう授業改善をとにもあった。学年によってでいから、今後も主体的・対話的で深い学びに向かう授業改善をで表した場までは表して学が必要のようで学があり、「見なと様けを関するのとと目標値を達成できていない学年もあった。と答えられる。 ・学年に対は関するかについても、共通理解をである。 の別を達成が「主体的」学報のではいまるが「またりのでなどが表しいまないと考えられる。 ・「②と比較すると「手体的」が表しいまないと考えられる。 の書をはいいと考えられる。 ・学年にはいいと考えられる。 ・学年にはいいと考えられる。 ・学年にはいいさいまがよりに対しれているのでは、まれ	本年度目標			
とができる一方、常に課題の提示や指示を待っている様子が見受けられる。しかし、変化の激しいこれからの社会では、子どもたち自身が自分の力で生きなくための力、いわゆる「生きる力」を身につけることが求められている。この「生きる力」の一つである「確かな学力、基礎的・基本的な「知識・技能」に加するためには、主体的・対話的で深い学びを実現することが必須である。そのための授業改善を常に求かていきたい。また、主体的・対話的で深い学びを実現することが必須である。そのための授業改善を常に求かていきたい。  1 「授業がよくわかる?」に「当てはまる」と答える児童の割合 → [7 196] ②「授業に主体的に取り組んでいる?」に「当てはまる」と答える児童の割合 → [6 196]  1 主体的・対話的で深い学びの実現のためには、教科領域等をつなぎ、児童に学びの必然性を実感させることが最も効果的でつけていきたい。 ②「授業に主体的に取り組んでいる?」に「当てはまる」と答える児童の割合 → [6 196]  1 主体の・対話的で深い学びの実現に向けた授業研究 ・ 道徳の授業を中心に各教科の「見方・考え方」を働かせているかを意識することができたか → 【肯定的回答 8 2 96] ○子ども発の課題設定と「自己評価」を行うことができたか → 「肯定的回答 8 2 96] ○子ども発の課題設定をした単元構成を一つ以上実践することができたが「実題設定」と「自己評価」を行うことができたか「実題設定」と「自己評価」を行うことができたか「実題設定」と「自己評価」を行うことができたか「実題設定」と「自己評価」を行うことができたか「実施の回答 8 0 96]  4. 地域に学び、地域にかかわるふるさと学習・地域と関わりの深い総合的な学習の時間の内容を各教科と関連付けて効果的に行うことができたか「「肯定的回答 8 0 96] ・学校全体としては「②といきのに対して授業の高を見ついないまのによって、学びの必然性が生まれ「主体的」に取り組み、「よくわかる」ことでことができまたのに実が変のイメージが異なり、前向きに自己評価するのが難し設をとしま一様的に学ぶ変のイメージが異なり、前向きに自己評価するのが難したと考えられる。・「②を比較すると「主体的」でないが「よくわかる」と答える児童がいこととがら、今後も主体的・対話的で深い学びに向かう授業改善をといましまで表もの。・学年によってできるように、どんな姿を目指してないが「よくわかる」を考え方」を書とめる必要があり、また、単位時間の授業研究だけでなく、単元をどのように構想するかについての研究を進める。・児童が「主体的に学ぶ」姿や「よくわかる」を具体的にインことし自己評価できるように、どんな姿を目指すの本のようで学を価値できるように、どんな姿を目指すの本のようで学を価値できるように、どんな姿を目前でいても、現画理解する。必然性を値ででいるとないましまのできるように、どんな姿を目前でいても、現画理解する。必然性を値ででは、サールによりに対しまれば、サールによりに対しまれば、サールによりに対しまれば、サールによりに対しまれば、サールによりに対しまれば、サールによりに対しまれば、サールによりに対しまれば、サールによりによりによりに対しまれば、サールによりによりによりによりによりによりによりによりによりによりによりによりによりに		以上にする。		
「生きるカ」の一つである「確かな学力(基礎的・基本的な「知識・技能」に加えている。そのためには、主体的・対話的で深い学びを実現することが必須である。そのための授業改善を常に求めていきたい。   まためには、主体的・対話的で深い学びを実現することが必須である。そのための授業のととが必須である。そのための授業では、教育課程の必需には、教科領域等をつなぎ、児童に学びの必然性を実感させることが最も効果的である。そのためのカリキュラムマネジメントを実践し、教育課程の改善につなげていきたい。   「授業がよくわかる?」に「当てはまる」と答える児童の割合 → 【7 1 % 】   「授業がよくわかる?」に「当てはまる」と答える児童の割合 → 【6 1 % 】   ・		とができる一方、常に課題の提示や指示を待っている様子が見受けら しかし、変化の激しいこれからの社会では、子どもたち自身が自分	れる。 かの力で	で生き
また、主体的・対話的で深い学びの実現のためには、教科領域等をつなぎ、児童に学びの必然性を実態させることが最も効果的である。そのためのカリキュラムマネジメントを実践し、教育課程の改善につなげていきたい。	目標設定の理由	「生きる力」の一つである「確かな学力(基礎的・基本的な「知識・え、「学ぶ意欲」や「思考力・判断力・表現力」を含めた幅広い学力するためには、主体的・対話的で深い学びを実現することが必須であ	技能」 」)」を	に加 育成
日標の達成状況		また、主体的・対話的で深い学びの実現のためには、教科領域等を 童に学びの必然性を実感させることが最も効果的である。そのための		
(別型アクケート)		の割合 → 【71%】	証価	А
・道徳の授業を中心に各教科の「見方・考え方」を働かせているかを意識することができたか → 【肯定的回答 100%】  2.学びを振り返り、学びを確かめ共有する ・つけたい力に向かって、児童自身が学びをつなぐことができる「課題設定」と「自己評価」を行うことができたか → 【肯定的回答 82%】 ○子ども発の課題設定をした単元構成を一つ以上実践することができたか → 【肯定的回答 56%】  3.教科領域をつなぎ、学びをつなぐ学習計画 ・ 道徳を中心とした年間の全体計画(別業)を各学年で作成していくことができたか → 【肯定的回答 80%】  4.地域に学び、地域にかかわるふるさと学習・地域と関わりの深い総合的な学習の時間の内容を各教科と関連付けて効果的に行うことができたか → 【肯定的回答 80%】 ・学校全体としては①②ともに目標値を達成することができた。教科の「見方・考え方」を働かせているかなどのどのように学んでいるかを重視した授業での幅を広げたことや、行事を中心に教科領域をつないだことで、学びの必然性が生まれて対した場所と考える。授業研究を通して授業のねらいを明確にし手立ての幅を広げたことや、行事を中心に教科領域をつないだことで、学びとも発の課題設定をした単元構成については検討を要する。・学年別に結果をみると目標値を達成できていない学年もあった。学年によって主体的に学ぶ姿のイメージが異なり、前向きに自己評価するのが難しかったのではないかと考えられる。 ・①②を比較すると「主体的」でないが「よくわかる」と答える児童がいることがら、今後も主体的・対話的で深い学びに向かう授業改善を進める必要があ行うの研究を進める。・・児童が「主体的に学ぶ」姿や、「よくわかる」姿を具体的にイメージし自己評価できるように、どんな姿を目指すのかを教師と児童が共通理解する。必然性をもって学ぶことや振り返りの意味についても、共通理解を深めることで学習を	(児童アンケート)		ат іші	Α
意識することができたか → 【肯定的回答 100%】  2. 学びを振り返り、学びを確かめ共有する ・つけたい力に向かって、児童自身が学びをつなぐことができる「課題設定」と「自己評価」を行うことができたか → 【肯定的回答 82%】 ○子ども発の課題設定をした単元構成を一つ以上実践することができたか → 【肯定的回答 56%】  3. 教科領域をつなぎ、学びをつなぐ学習計画 ・道徳を中心とした年間の全体計画(別業)を各学年で作成していくことができたか → 【肯定的回答 100%】  4. 地域に学び、地域にかかわるふるさと学習・地域と関わりの深い総合的な学習の時間の内容を各教科と関連付けて効果的に行うことができたか → 【肯定的回答 80%】 ・学校全体としては①②ともに目標値を達成することができた。教科の「見方・考え方」を働かせているかなどのどのように学んでいるかを重視した授業改善を広げたことや、行事を中心に教科の場でないだこととができた。教科の「見方・考え方」を働かせているかなどのどのように学んでいるかを重視した授業改善を広げたことや、行事を中心に教授領域をつないだこととがですなの必然性でまれ「主体的」に取り組み、「よくわかる」ことにつながった。子ども発の課題設定をした単元構成については検討を要する。・学年別に結果をみると「権機を達成できていない学年もあった。学年によってで主体的に学ぶ姿のイメージが異なり、前向きに自己評価するのが難しかったのではないかと考えられる。 ・①②を比較すると「主体的」でないが「よくわかる」と答える児童がいることから、今後も主体的・対話的で深い学びに向かう授業改善を進める必要がそ行う。また、単位時間の授業研究だけでなく、単元をどのように構想するかについての研究を進める。・児童が「主体的に学ぶ」姿や、「よくわかる」姿を具体的にイメージし自己評価できるように、どんな姿を目指すのかを教師と児童が共通理解する。必然性をもって学ぶことや振り返りの意味についても、共通理解を深めることで学習を		1. 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業研究		
・つけたい力に向かって、児童自身が学びをつなぐことができる「課題設定」と「自己評価」を行うことができたか →【肯定的回答 82%】 ○子ども発の課題設定をした単元構成を一つ以上実践することができたか →【肯定的回答 56%】 3.教科領域をつなぎ、学びをつなぐ学習計画 ・道徳を中心とした年間の全体計画(別葉)を各学年で作成していくことができたか →【肯定的回答 100%】 4.地域に学び、地域にかかわるふるさと学習 ・地域と関わりの深い総合的な学習の時間の内容を各教科と関連付けて効果的に行うことができたか →【肯定的回答 80%】  ・学校全体としては①②ともに目標値を達成することができた。教科の「鬼方・考え方」を働かせているかなどのように学んでいるかを重視した授業での必然性が生まれ「主体的」に取り組み、「よくわかる」ことにつながった。子ども発の課題設定をした単元構成については検討を要する。・学年別に結果をみると目標値を達成できていない学年もあった。学年のに結果をみると目標値を達成できていないが定まれ「主体的」に取り組み、「よくわかる」ことにつながった。子ども発の課題設定をした単元構成については検討を要する。・学年別に結果をみると目標値を達成できていない学年もあった。学年によって主体的に学ぶ姿のイメージが異なり、前向きに自己評価するのが難しかったのではないかと考えられる。 ・①②を比較すると「主体的」でないが「よくわかる」と答える児童がいることから、今後も主体的・対話的で深い学びに向かう授業改善を進める必要があり、道徳だけでなく名教科の「見方・考え方」を意識した授業づくりの研究を行う。また、単位時間の授業研究だけでなく、単元をごのように構想するの必然性の研究を述める。・児童が「主体的に学ぶ」姿や、「よくわかる」姿を具体的にイメージし自己評価できるように、どんな姿を目指すのかを教師と児童が共通理解する。必然性をもって学ぶことや振り返りの意味についても、共通理解を深めることで学習				Α
と 評価 (教員アンケート)	具体的方策	・つけたい力に向かって、児童自身が学びをつなぐことができる 「課題設定」と「自己評価」を行うことができたか		В
3.教科領域をつなぎ、学びをつなぐ学習計画 ・道徳を中心とした年間の全体計画(別葉)を各学年で作成していくことができたか  4.地域に学び、地域にかかわるふるさと学習 ・地域と関わりの深い総合的な学習の時間の内容を各教科と関連付けて効果的に行うことができたか  ・学校全体としては①②ともに目標値を達成することができた。教科の「見方・考え方」を働かせているかなどのどのように学んでいるかを重視した授業改善を行った成果だと考える。授業研究を通して授業のねらいを明確にし手立ての幅を広げたことや、行事を中心に教科領域をつないだことで、学びの必然性が生まれ「主体的」に取り組み、「よくわかる」ことにつながった。子ども発の課題設定をした単元構成については検討を要する。・学年別に結果をみると目標値を達成できていない学年もあった。学年によって主体的に学ぶ姿のイメージが異なり、前向きに自己評価するのが難しかったのではないかと考えられる。  ・①②を比較すると「主体的」でないが「よくわかる」と答える児童がいることから、今後も主体的・対話的で深い学びに向かう授業改善を進める必要があり、道徳だけでなく各教科の「見方・考え方」を意識した授業づくりの研究を行う。また、単位時間の授業研究だけでなく、単元をどのように構想するかについての研究を進める。・児童が「主体的に学ぶ」姿や、「よくわかる」姿を具体的にイメージし自己評価できるように、どんな姿を目指すのかを教師と児童が共通理解する。必然性をもって学ぶことや振り返りの意味についても、共通理解を深めることで学習を価	評価	〇子ども発の課題設定をした単元構成を一つ以上実践することがで	評価	С
ことができたか	(教員)ファーツ			
・地域と関わりの深い総合的な学習の時間の内容を各教科と関連付けて効果的に行うことができたか → 【肯定的回答 80%】  ・学校全体としては①②ともに目標値を達成することができた。教科の「見方・考え方」を働かせているかなどのどのように学んでいるかを重視した授業改幅を行った成果だと考える。授業研究を通して授業のねらいを明確にし手立ての幅を広げたことや、行事を中心に教科領域をつないだことで、学びの必然性が生まれ「主体的」に取り組み、「よくわかる」ことにつながった。子ども発の課題設定をした単元構成については検討を要する。・学年別に結果をみると目標値を達成できていない学年もあった。学年によって主体的に学ぶ姿のイメージが異なり、前向きに自己評価するのが難しかったのではないかと考えられる。  ・①②を比較すると「主体的」でないが「よくわかる」と答える児童がいることから、今後も主体的・対話的で深い学びに向かう授業改善を進める必要があう。また、単位時間の授業研究だけでなく、単元をどのように構想するかについての研究を進める。・児童が「主体的に学ぶ」姿や、「よくわかる」姿を具体的にイメージし自己評価できるように、どんな姿を目指すのかを教師と児童が共通理解する。必然性をもって学ぶことや振り返りの意味についても、共通理解を深めることで学習を価		ことができたか → <b>【肯定的回答100%</b> 】		Α
けて効果的に行うことができたか → 【肯定的回答 80%】				
考え方」を働かせているかなどのどのように学んでいるかを重視した授業改善を行った成果だと考える。授業研究を通して授業のねらいを明確にし手立ての幅を広げたことや、行事を中心に教科領域をつないだことで、学びの必然性が生まれ「主体的」に取り組み、「よくわかる」ことにつながった。子ども発の課題設定をした単元構成については検討を要する。・学年別に結果をみると目標値を達成できていない学年もあった。学年によって主体的に学ぶ姿のイメージが異なり、前向きに自己評価するのが難しかったのではないかと考えられる。  ・①②を比較すると「主体的」でないが「よくわかる」と答える児童がいることから、今後も主体的・対話的で深い学びに向かう授業改善を進める必要があり、道徳だけでなく各教科の「見方・考え方」を意識した授業づくりの研究を行う。また、単位時間の授業研究だけでなく、単元をどのように構想するかについての研究を進める。・児童が「主体的に学ぶ」姿や、「よくわかる」姿を具体的にイメージし自己評価できるように、どんな姿を目指すのかを教師と児童が共通理解する。必然性をもって学ぶことや振り返りの意味についても、共通理解を深めることで学習を価				В
行った成果だと考える。授業研究を通して授業のねらいを明確にし手立ての幅を広げたことや、行事を中心に教科領域をつないだことで、学びの必然性が生まれ「主体的」に取り組み、「よくわかる」ことにつながった。子ども発の課題設定をした単元構成については検討を要する。・学年別に結果をみると目標値を達成できていない学年もあった。学年によって主体的に学ぶ姿のイメージが異なり、前向きに自己評価するのが難しかったのではないかと考えられる。  ・①②を比較すると「主体的」でないが「よくわかる」と答える児童がいることから、今後も主体的・対話的で深い学びに向かう授業改善を進める必要があり、道徳だけでなく各教科の「見方・考え方」を意識した授業づくりの研究を行う。また、単位時間の授業研究だけでなく、単元をどのように構想するかについての研究を進める。・児童が「主体的に学ぶ」姿や、「よくわかる」姿を具体的にイメージし自己評価できるように、どんな姿を目指すのかを教師と児童が共通理解する。必然性をもって学ぶことや振り返りの意味についても、共通理解を深めることで学習を価				
(主体的」に取り組み、「よくわかる」ことにつながった。子ども発の課題設定をした単元構成については検討を要する。 ・学年別に結果をみると目標値を達成できていない学年もあった。学年によって主体的に学ぶ姿のイメージが異なり、前向きに自己評価するのが難しかったのではないかと考えられる。 ・①②を比較すると「主体的」でないが「よくわかる」と答える児童がいることから、今後も主体的・対話的で深い学びに向かう授業改善を進める必要があり、道徳だけでなく各教科の「見方・考え方」を意識した授業づくりの研究を行う。また、単位時間の授業研究だけでなく、単元をどのように構想するかについての研究を進める。 ・児童が「主体的に学ぶ」姿や、「よくわかる」姿を具体的にイメージし自己評価できるように、どんな姿を目指すのかを教師と児童が共通理解する。必然性をもって学ぶことや振り返りの意味についても、共通理解を深めることで学習を価		行った成果だと考える。授業研究を通して授業のねらいを明確にし手	立ての	つ幅を
をした単元構成については検討を要する。 ・学年別に結果をみると目標値を達成できていない学年もあった。学年によって主体的に学ぶ姿のイメージが異なり、前向きに自己評価するのが難しかったのではないかと考えられる。  ・①②を比較すると「主体的」でないが「よくわかる」と答える児童がいることから、今後も主体的・対話的で深い学びに向かう授業改善を進める必要があり、道徳だけでなく各教科の「見方・考え方」を意識した授業づくりの研究を行う。また、単位時間の授業研究だけでなく、単元をどのように構想するかについての研究を進める。 ・児童が「主体的に学ぶ」姿や、「よくわかる」姿を具体的にイメージし自己評価できるように、どんな姿を目指すのかを教師と児童が共通理解する。必然性をもって学ぶことや振り返りの意味についても、共通理解を深めることで学習を価	総括			
主体的に学ぶ姿のイメージが異なり、前向きに自己評価するのが難しかったのではないかと考えられる。  ・①②を比較すると「主体的」でないが「よくわかる」と答える児童がいることから、今後も主体的・対話的で深い学びに向かう授業改善を進める必要があり、道徳だけでなく各教科の「見方・考え方」を意識した授業づくりの研究を行う。また、単位時間の授業研究だけでなく、単元をどのように構想するかについての研究を進める。 ・児童が「主体的に学ぶ」姿や、「よくわかる」姿を具体的にイメージし自己評価できるように、どんな姿を目指すのかを教師と児童が共通理解する。必然性をもって学ぶことや振り返りの意味についても、共通理解を深めることで学習を価	改善策	=	ケート	7
から、今後も主体的・対話的で深い学びに向かう授業改善を進める必要があり、 道徳だけでなく各教科の「見方・考え方」を意識した授業づくりの研究を行う。 また、単位時間の授業研究だけでなく、単元をどのように構想するかについての 改善策 ・児童が「主体的に学ぶ」姿や、「よくわかる」姿を具体的にイメージし自己評 価できるように、どんな姿を目指すのかを教師と児童が共通理解する。必然性を もって学ぶことや振り返りの意味についても、共通理解を深めることで学習を価		主体的に学ぶ姿のイメージが異なり、前向きに自己評価するのが難し		
道徳だけでなく各教科の「見方・考え方」を意識した授業づくりの研究を行う。また、単位時間の授業研究だけでなく、単元をどのように構想するかについての研究を進める。 ・児童が「主体的に学ぶ」姿や、「よくわかる」姿を具体的にイメージし自己評価できるように、どんな姿を目指すのかを教師と児童が共通理解する。必然性をもって学ぶことや振り返りの意味についても、共通理解を深めることで学習を価		00		
・児童が「主体的に学ぶ」姿や、「よくわかる」姿を具体的にイメージし自己評価できるように、どんな姿を目指すのかを教師と児童が共通理解する。必然性をもって学ぶことや振り返りの意味についても、共通理解を深めることで学習を価		道徳だけでなく各教科の「見方・考え方」を意識した授業づくりの研また、単位時間の授業研究だけでなく、単元をどのように構想するか	T究を行	うう。
もって学ぶことや振り返りの意味についても、共通理解を深めることで学習を価		・児童が「主体的に学ぶ」姿や、「よくわかる」姿を具体的にイメー		
		もって学ぶことや振り返りの意味についても、共通理解を深めること		

#### 目標を達成するための具体的方策実践例

#### 1. 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業研究

道徳の授業研究において、1学期に1回「研究週間」を設定し、 他学年の授業を見合う機会とした。「多面的・多角的に考えている か、自分との関わりで考えているか」という視点で児童の姿を見取 り、授業研究会を行った。この取組により、学年間の系統性や道徳 の授業で扱う内容項目についての理解を深めることができた。

指導主事訪問に向けての授業研究では、夏季休業中に越前町教育 委員会指導主事を講師に招いて道徳の研修会を行い、授業のねらい にせまるための発問を吟味することができた。さらに、模擬授業で



5年生 指導主事訪問授業

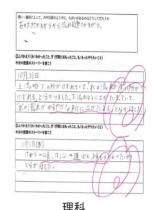
児童の反応を予想したり、学年に応じた指導の手立てを工夫したりして授業実践を重ねることで、考え議論する道徳の授業づくりを研究することができた。

#### 2. 学びを振り返り、学びを確かめ共有する

単元全体の目標を明確にした学習活動を行うため、振り返りシートを活用した。各学年の体育では、がんばりカードを活用して学びを振り返る機会を設けた。2年キックベースボールでは、攻めや守りの工夫を振り返り、次時のはじめに全体で共有した。また、今日のきらりさんを探し、良いプレーや声かけを次回に取り入れるようにし、プレーもチームワークも向上した。理科では、1単元で1枚の振り返りシートを活用し、内容のまとまりごとに授業



体育がんばりカード

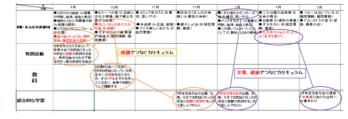


理性 単元のふりかえりシート

でわかったことや疑問に思ったことを振り返り、もっとやりたいことを考えるようにした。振り返りを授業で紹介し、疑問について全体に投げかけたり広げたりして議論する場づくりを行うことで、学びを確かめ、以後の学びへの意欲につなげることができた。

#### 3. 教科領域をつなぎ、学びをつなぐ学習計画

道徳の別葉(教科・領域等との関連を示す指導計画一覧表)づくりのワークショップを行い、教育課程全体を見直し、長期間を見通した効果的な指導計画を練ることができた。2学期は体育大会などの学校行事、3学期は卒業・進級を軸にしたカリキュラムマネジメントを行



道徳 別葉

い、児童にとって学びの必然性が生まれるように学びをつないでいく。

5年生では、「感謝」について学んだ道徳と教科領域をつなぎ、体育大会後の6年生をたたえる「なかよしタイム」や、家庭科における「先生たちに海土里みそ汁を作って感謝を伝えよう」などの実践を行うことができた。

#### 4. 地域に学び、地域にかかわるふるさと学習

地域の名所に行ってどのような場所なのかを体験したり、地域の 産業に携わる方の話を直接伺ったりと、主に総合的な学習の時間に 実感を伴ったふるさと学習を実施することができた。

3年生では、宮崎地区にある地域の宝を知り、校区内外の人に知ってもらおうという目標のもと、学習を進めることができた。新聞を作成したり、劇で表現したりして、学んだことをどのように伝えるかを試行錯誤しながら学習を進めることができた。



3年生 たけのこ堀り体験

#### 具体的項目と目標、具体的方策と評価

	創造的な活動づくり	<b>6</b> 11.0	
中期重点項目	児童が主体となる学校生活 健やかな心と体づくり	総合 評価	В
本年度目標	<ul><li>①「学校が楽しい?」に「当てはまる」と答える児童を70%以上に②「みんなで何かをするのは楽しい?」に「当てはまる」と答える児以上にする。</li></ul>		
目標設定の理由	本校はまじめで素直な児童が多く、ほとんどが、係や委員会活動なし、きちんと取り組む。また規律面においても、従来取り組んできた本柱」によってしっかりと習慣化が図れてきた。一方、自ら課題を見な考えを提案したり、困難なことにもチャレンジしたりする態度にはれる。さらに、ここ数年のコロナ禍でこれまでの活動が制限され、新生み出す機会も奪われてきた。 よって今年度は、教育活動全般において、児童の「主体性・創造性とに重点を置き、児童のアイデアを十分に引き出すこと、また、それうとおり強く努力できる活動の工夫をおこなう。また、その土台となす。	「つ課た 美け題な を実健 の で で で で で の で の で で の で の で の で の で	あがま 育見をの新見動 むしなこといる こよ心
	①「尚恭が寒しいの」に「坐てけまる」し欠って旧音の		

	とに里点を直さ、児童のアイテアを十分に引き出りこと、また、それ  うと粘り強く努力できる活動の工夫をおこなう。また、その土台とな  と体づくりにも引き続き取り組み、児童が心から「楽しい」と思える  す。	る健康	長な心
目標の達成状況	<ul><li>①「学校が楽しい?」に「当てはまる」と答える児童の割合</li><li>→【67%】</li></ul>	評価	В
(児童アンケート)	②「みんなで何かをするのは楽しい?」に「当てはまる」 と答える児童の割合 →【77%】	тш	В
	1.主体的に考え、すすんで活動する 2.試行錯誤する場と機会の保障		
	・学校行事や縦割り班活動、委員会、係活動等を通して、児童のアイデアを十分に引き出し、実現しようと努力する活動の工夫をおこなうことができたか →【 <b>肯定的回答</b> 90%】		Α
	3. みんなでつくる安全・安心な学校 ・毎月の生活目標において、「重点的な取り組み」について学級で		
具体的方策 と 評価	話し合い、振り返ることで、よりよい学級・学校づくりへの意識を 高めることができたか → <b>【肯定的回答100%</b> 】	評価	Α
(教員アンケート)	・ポジティブ教育を充実させ、互いに認め合える人間関係づくりに 努めることができたか → 【 <b>肯定的回答 78%</b> 】		В
	4. 自らつくる健康な体、健康な生活		
	・自分の目標に向かって運動を続け、粘り強く挑戦できる活動の工夫をおこなうことができたか → 【 <b>肯定的回答100%</b> 】		Α
	・家庭と連携し、児童自らが自分の生活を見直し、健康への意識を 高められるような働きかけをおこなうことができたか →【 <b>肯定的回答100%</b> 】		Α
	・①②とも目標値に近い結果となった。行事、委員会活動を中心に、企画・運営し、試行錯誤しながら取り組んだ成果が表れていると考え	こる。ま	また、
総括	教員側が児童のアイデアを十分に引き出し支援したことも、主体的ながった。また、縦割り班活動や昼休みの遊びなど、異学年との交流も	児童0	)「楽
	しい」という思いにつながっている。しかし、「当てはまる」と答え 童もおり、その原因として、友達関係に何らかの不安を抱えていたり に、「協働する楽しさ」を見出せていなかったりするのではないかと	り、学習	習の中
改善策	・学校全体としては、児童が主体となり企画・運営する「委員会活動 遊び」を継続しておこなう。特に、「縦割り遊び」については、年間		
	取り入れ、多学年が交流する機会を定期的に設ける。 ・学級においては、普段の生活はもちろん、授業づくりにおいても、		
	課題を見つけ、自己決定し協働できる場面を多く設ける。主体的に考 意見を交わす中で互いの良いところを認め、より理解し合えるような 関係を築けるよう、働きかける必要がある。		

#### 目標を達成するための具体的方策実践例

#### 1. 主体的に考え、すすんで活動する

#### 2. 試行錯誤する場と機会の保障

委員会活動では、よりよい学校にするため、児童が主体的に活動する姿が多く見られた。「にょきにょき宮崎っ子プロジェクト」と称し、どの委員会も学校をよくするための活動、学校行事とリンクさせた活動に趣向を凝らし取り組むことができた。

年度始めの児童総会では、年間計画について各委員会が プレゼンテーションを行った。また、プロジェクトについ て放送、チラシ・ポスターなどを用い、全校児童へ呼びか けるなど、児童の主体性・創造性を十分に生かした活動が 展開できた。毎月の委員会の時間には、振り返りや活動の 見直しをおこない、次の実践につなげることができた。

#### 3. みんなでつくる安全・安心な学校

毎月の生活目標や重点項目に対し、各学級で「よくできていること」「がんばるとよいこと」を話し合い、よりよい学級づくりへの意識を高めることを目指した。具体的取り組みを教室と廊下に掲示することで、他学年の取り組みが分かるようにした。また、毎月の「振り返りカード」で個々の頑張りを振り返ることができた。



保健委員会 手洗いプロジェクト



図書委員会 読み聞かせ



縦割り班でのなかよしタイム

ポジティブ教育については、年間計画を作成したものの、各学級での実践については、担任に任せきりになり、取り組みに差が生まれた。進捗状況の把握や推進という点においては、目標を十分に達成できなかった。しかし、体育大会後の「ピア・サポート活動」として、がんばった6年生をたたえる「なかよしタイム」を5年生が中心となって企画し、縦割り班の6年生に感謝の気持ちを伝えることができた。

#### 4. 自らつくる健康な体、健康な生活

体育的な取り組みとして、全校一斉に「1000m 走」を行った。「がんばりカード」を活用し、個人に適した「めあて」を立てることができるようにした。毎年同じ距離を走ることで経年変化が分かり、自分の成長を実感することができた。



親子でメディア利用を考える

子どもたちにとって「ハッピー週間」は、自分の生活習慣を振り返り、健康に過ごそうとする意識づけとなっている。特に2学期は、チェック項目の一つであるメディア利用について着目し、生活の中での「メディアバランス」を考えて過ごす取り組みを行った。親子でメディアバランスについてともに学び、話し合い、計画することで、各家庭の生活スタイルにあったメディア利用のルールをつくり実践した。また、PTA健康安全委員会とタイアップし、本校のメディア利用に関する実態調査の結果を、親子で学ぶ場で報告した。

#### 具体的項目と目標、具体的方策と評価

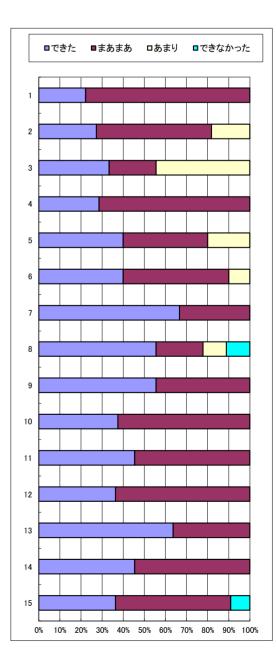
_								
	共に歩む教職員集団	<i>6</i> // <b>^</b>						
中期重点目標	心身ともに健康で、生き生きと働く教職員	総合評価	В					
本年度目標	①「主体的に学び協働できた?」「目標·目的を問い直し、よりよいくりをめざした?」に「当てはまる」と答える教職員を80%以上に②時間外勤務時間を月平均45時間以下にする。 ③年休平均取得日数を年間11日以上にする。							
目標設定の理由	今年度、児童も教職員も「すすんで学ぶ みんなとつくる」を合いな活動をしていく。まずは、教職員が主体的に学んだり、協働したりとを率先垂範していかなければならない。本校の教職員はとても勤勉であり、担当職務を協働して最後までなどができる。しかし、職務遂行にあたり、必要以上に手間や時間をかり、前例踏襲傾向に陥ったりすることもある。これを是正するために育活動の目標・目的を問い直し、限られた時間の中で必要かつ有効なるよう心掛ける必要がある。また、全ての教育活動は教職員の健康維持が前提となる。そのため働き方を常に意識すると共に、必要な休養を適宜取っていかなければ	りし びじゅう いけば いけば できます に、 近 に に が に に が に に が に に が に に が に に が に か に が に が	い げぎ常て 窗 こ こ 教取 な					
	①「主体的に学び協働できた?」に「当てはまる」と答える る教職員の割合 →【45%】		С					
目標の達成状況	<ul><li>①「目標·目的を問い直し、よりよい授業·活動づくりをめずした?」に「当てはまる」と答える教職員の割合 →【36%】</li></ul>	評価	O					
	②時間外勤務時間の月平均時間→【28時間52分】							
	③年休平均取得日数 →【17日】		Α					
	1. 主体的な校内研修や日常的な交流で学び合うことができたか →【 <b>肯定的回答100%</b> 】		Α					
具体的方策 と	2.課題をふまえ、目標·目的を明確にし、改善のために協働できたか → <b>【肯定的回答100%】</b>	· 評価	Α					
評価	3. 心身の健康やワークライフバランスを意識して働き方を調整できたか → <b>【肯定的回答 9 1 %】</b>	р і іші	Α					
	4. 長期休業中に7日以上年休を取得できたか →【 <b>取得率100%</b> 】		Α					
総括	・①の結果は、中間評価時より若干改善したが目標値には至らなかっは、多忙だったために、従来より一歩踏み込んで主体的に研究したりり、よりよい授業・活動づくりを行ったりすることができなかったたれる。また、目標達成に向けて努力したが十分に満足できる域まで達と教職員が厳しく自己評価したことも、結果が低かった一因と思われ・②③については、従来から推進している働き方改革等が奏功し、目することができた。今後も、適正な働き方に対する意識を維持しつてることが望まれる。	リ、協働 めだと をしなか いる。 目標値で	動した 思わ いった を達成					
改善策	・教職員の時間的余裕の創出及び教育活動の質の向上のために、学校基づき教育活動の更なる精選と再構築を行う必要がある。 ・教育活動の結果だけでなく過程についても積極的に評価し、やりかがら職務に当たることのできる環境(雰囲気)作りが必要である。							

#### 令和5年度 2学期 アンケート結果(児童対象・11月実施)

				人	数				9	6				
	質問内容	学年	当てはまる	どちらかと いうと 当てはま る	どちらかと いうと 当てはま らない	てはまらない	学年	当てはまる	どちらかと いうと 当てはま る	どちらかと いうと 当てはま らない	当てはまらない	ŧ	肯定的 回答	
		1	17	8	0	0	1	68%	32%	0%	0%		100%	□当てはまる ■どちらかというと… □当てはまる ■どちらかというと…
		2	26	1	1	0	2	93%	4%	4%	0%		96%	□どちらかというと… □当てはまらない □どちらかというと… □当てはまらない
	学校が楽し	3	18	7	0	0	3	72%	28%	0%	0%		100%	1.学校が楽しい 2.みんなで何かするのは楽しい
1	けるが来し	4	12	13	1	0	4	46%	50%	4%	0%		96%	2.5/10.5 (19.8 ) \$50.00
	υ' <sub>o</sub>	5	13		3	1	5	43%	43%	10%	3%		87%	
		6	27	7	U	0	6	79%	21%	0%	О%		100%	
Ш		全校	113	49	5	1	全校	<u>67%</u>	29%	3%	1%		96%	3
		1	19	5	1	0	1	76%	20%	4%	0%		96%	4
	t <del></del>	2	27	1	0	0	2	96%	4%	0%	0%		100%	5
	みんなで何	3	18		0	0	3	72%	28%	0%	0%		100%	
	かするのは	4 5	17 19		0	1	4 5	65% 63%	35% 30%	0% 3%	0% 3%		100% 93%	<b>2</b> ★ <b>2 2 4 3 3 4 3 4 3 4 4 4 5 4</b>
	楽しい。	6	30	3	1	0	6	88%	9%	3%	0%		93%	0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% 0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%
		全校	130	34	0	1	全校	<b>77%</b>	20%		1%		98%	
Ш		主仪			3		主权			2%				
		1	17 17	7 11	1	0	1	68%	28%	4%	0%		96%	□当てはまる □どちらかというと… □当てはまる □どちらかというと… □当てはまらない □当てはまらない □当てはまらない
	世来にナオ	3	17		0	0	3	61% 68%	39% 32%	0% 0%	0% 0%		100% 100%	ロどちらかというと… ロ当てはまらない ロどちらかというと… ロ当てはまらない
	授業に主体	4	12		1	0	4	46%	50%	4%	0%		96%	3.授業に主体的に取り組んでいる 4.授業がよく分かる
	的に取り組	5	18	9	2	1	5	60%	30%	7%	3%	Ŏ	90%	
	んでいる。	6	22	11	1	0	6	65%	32%	3%	0%	Ŏ	97%	
		全校	103	59	5	1	全校	61%	35%	3%	1%		96%	
Н		1	17		0	0	1	68%	32%	0%	0%		100%	
		2	26	1	1	0	2	93%	32% 4%	4%	0%		96%	
		3	17	7	0	1	3	68%	28%	0%	4%		96%	
	授業がよく	4	15	11	0	0	4	58%	42%	0%	0%	Ŏ	100%	
	分かる。	5	17	11	1	1	5	57%	37%	3%	3%		93%	全校 全校
		6	27	7	0	0	6	79%	21%	0%	0%		100%	0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% 0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%
		全校	119	45	2	2	全校	71%	27%	1%	1%		98%	

#### 令和5年度 2学期 アンケート結果(教員対象・12月実施)

	質問内容		人	数			肯定的			
	я III г	できた	まあまあ	あまり	できなかった	できた	まあまあ	あまり	できなかった	回答
1	・道徳の授業を中心に各教科の「見方・考え方」を働かせているか を意識することができたか。	2	7	0	0	22%	78%	0%	0%	100%
2	・つけたいカに向かって、児童自身が学びをつなぐことができる 「課題設定」と「自己評価」を行うことができたか。	3	6	2	0	27%	55%	18%	0%	82%
3	〇子ども発の課題設定をした単元構成を一つ以上実践すること ができたか。	3	2	4	0	33%	22%	44%	0%	<b>5</b> 6%
4	・道徳を中心とした年間の全体計画(別葉)を各学年で作成していくことができたか。	2	5	0	0	29%	71%	0%	0%	<b>100</b> %
5	・地域と関わりの深い内容の総合的な学習の時間の内容を各教 科と関連付けて効果的に行うことができたか。	2	2	1	0	40%	40%	20%	0%	80%
6	・学校行事や縦割り班活動、委員会、係活動等を通して、児童のアイデアを十分に引き出し、実現しようと努力する活動の工夫をおこなうことができたか。	4	5	1	0	40%	50%	10%	0%	90%
7	・毎月の生活目標において、「重点的な取り組み」について学級で話し合い、振り返ることで、よりよい学級・学校づくりへの意識を高めることができたか。	4	2	0	0	67%	33%	0%	0%	<b>100</b> %
8	・ポジティブ教育を充実させ、互いに認め合える人間関係づくりに 努めることができたか。	5	2	1	1	56%	22%	11%	11%	78%
9	・自分の目標に向かって運動を続け、粘り強く挑戦できる活動の 工夫をおこなうことができたか。	5	4	0	0	56%	44%	0%	0%	<b>100</b> %
10	・家庭と連携し、児童自らが自分の生活を見直し、健康への意識 を高められるような働きかけをおこなうことができたか。	3	5	0	0	38%	63%	0%	0%	100%
11	・主体的に学び、恊働できたか。	5	6	0	0	45%	55%	0%	0%	100%
12	・目標、目的を問い直し、よりよい授業、活動づくりをめざしたか。	4	7	0	0	36%	64%	0%	0%	<b>1</b> 00%
13	・主体的な校内研修や日常的な交流で学び合うことができたか。	7	4	0	0	64%	36%	0%	0%	<b>1</b> 00%
14	・課題をふまえ、目標・目的を明確にし、改善のために協働することができたか。	5	6	0	0	45%	55%	0%	0%	100%
15	・心身の健康やワークライフバランスを意識して働き方を調整する ことができたか。	4	6	0	1	36%	55%	0%	9%	91%



#### 令和5年度学校関係者評価書

宮崎小学校

	授業改善による確	・「道徳」授業からの各教科への意識づけは、児童の「受動的に学力をつける」から、「主体的 に考え、学ぶ」きっかけづくりになったと思う。
主体	かな学力の育成	・教科領域をつなぐことで、「なぜこの教科を学ぶのか?」「なぜ勉強する必要があるのか」を より意識するようになるのではないかと思う。
的な学び	カリキュ	・道徳授業の研修会において、先生方の授業づくりに大きなプラスになったと思う。忙しい中 にあっても、先生方自身も学ぶ機会があれば、より意欲的になれるのではないか。
づくり	ラムマネジメント	・地域を学ぶこと、またそれらを表現することで、地域をよりよく理解し、郷土愛を育て、さらに学んだことをいかに表現するかを、児童みんなで学習できたことは大きい意義がある。
	による教育課程の	・子どもが地域の方に感謝をするのではなく、子どもが地域の方から感謝される、例えば地域 の課題に取り組むようなことができるとよい。
	改善	・子ども発の課題設定について、先生方で意識(方向性)を統一できるとよい。
	児童が主	・各委員会のプレゼンテーション・プロジェクト発信は、とてもよい活動だと思う。子どもたちの主体性・創造性を促すとともに、協調性や協働性も学べ、さらによりよい発信を考えることは自己表現力が豊かになり、自分の役割を認識し、自己肯定感も増すと思う。今後も子どもたちが主体となる魅力発信活動を続けていってほしい。
創造	体となる	・児童の「委員会活動」、「縦割り遊び」を今後も継続してほしい。
的な 活動 づく	学校生活	・「がんばりカード」の活用で、自らの成長がわかり、次の目標設定につながるのでいいと思 う。「がんばる」という言葉に敏感な児童もいるのではないかとも思った。
りり	心と体づくり	・家のお手伝いをたくさんしてほしい。お手伝いをすることで、下準備や段取りの大切さが学 べる。
		・美徳の5本柱は社会人になっても役に立つ。学校として大切にしてほしい。
		・メディアバランスの取り組みは、PTAと協力して継続していってほしい。
// N=	> #- 1 - 2	
共に歩む	心身ともに健康	・宮崎小学校で働くことで、先生方の自己肯定感も高まるとよい。
教職	で、生き	・先生同士の授業見学や研修によって、前向きな先生同士の評価ができるとよい。
員集 団	生きと働く教職員	・校務支援システムの導入など、昔より負荷が減っている部分もあるが、まだまだ忙しい。これから教職員を目指す若者のためにも職場環境の改善に取り組んでほしい。
131	₹₩₩₩	・地域に対する学校活動の情報発信を継続してほしい。
7	亡の他	・宮崎小学校はレベルの高い取組みを行っていると感じる。今後も継続してほしいが、自己評価が厳しいので、その点は配慮されるべき。
学	校教育	・多忙の中で、宮崎の子どもたちのために、努力していただいている教職員の皆様に感謝している。今後もよりよい教育環境・職場環境が維持できるよう一緒に笑顔で取り組んでいきたい。
	全般	・作文力やプレゼンテーション力(的確な表現や表現方法)の育成に力を入れてほしい。
		・自然公園の活用を検討してほしい。